

テレワークで育児と仕事の両立可能に

10~20代の若手、全社員の約3割に

少子化対策、子育ての経済的負担軽減を目的に

当社は土木・建設業のほか、全国の公共施設や保育所・幼稚園、商業施設などの遊具を設計・施工しています。1997年に配偶者出産特別休暇、2010年に育休中のテレワークの制度化と、早くから仕事と家庭の両立に取り組んできました。遊具メーカーとして、少子化対策に貢献できないかと思ったからです。そんな企業姿勢が若手社員の採用につながり、現在10~20代が全社員の約3割を占めています。今年5月から社員への出産祝い金の制度を拡大し、第1子、第2子30万円に加え、第3子以降には100万円を贈ることにしました。

クラウド型グループウェアの活用

建設業は移動、工期産業です。遊具の施工・点検期間は、年単位から1週間程度までさまざま。社員は全国の現場に赴き、ウィークリーマンションなどを拠点に仕事をしています。そこが、テレワークの場になります。当社では、クラウド型グループウェアの活用で、どこにいても社の情報を共有でき、設計図などをパソコンで見られる環境を整えています。スマホと連携し、遊具の点検や報告書を作成できるソフトも開発しました。ICTが業務の効率化やテレワークの推進、特にモバイル勤務に果たしている役割は大きいですね。



テレワークの制度化に早くから取り組んできた株式会社岡部の岡部竜一社長

2日の在宅と週3日の職場勤務の新しい働き方

セキュリティ対策万全のICTで安心

結婚を機に富山本社から東京支店に異動し、働きながら2歳半の娘を育てています。仕事は、保育所・幼稚園や公園などの遊具のデザイン・設計です。出産後も仕事を続けたくて、会社の育児休暇制度を利用し、1歳半まで育児に専念しました。その後、テレワーク制度を利用し、週2日の在宅勤務と、週3日の支店でのフルタイム勤務を組み合わせたワークスタイルで職場復帰しました。テレワーク時は自宅のパソコンから会社のサーバーにアクセスしてデータ呼び出し、設計図を作成しています。勤務地を問わず、制度を活用できる会社の体制とセキュリティ対策万全のICTが在宅での仕事を可能にしています。



株式会社岡部東京支店公園施設部の正野裕理さん

テレワークで仕事もプライベートも充実

自宅から東京支店までの通勤時間は約1時間。電車の遅延でもっと時間がかかることも。在宅勤務にすると、往復約2時間を有効活用できます。自宅近くに娘の保育所があり、急な発熱や健診などへの対応、行事への参加もスムーズです。職場勤務の場合、午前7時30分~午後4時30分と、勤務時間にも配慮してもらっています。通勤ラッシュを避けられ、時間に余裕をもって娘の送り迎えができます。テレワークが育児をサポートしてくれます。笑顔で家族と過ごす時間も増えました。